

CIEC 第 45 回研究会報告（プレカンファレンス）

テーマ： 「勉強と学び」

日時：2004 年 6 月 13 日 13 時 30 分～17 時

会場：神戸大学 神大会館

司会 橘 孝博

（敬称略）

・基調講演「勉強と学び」 佐伯胖氏

学級崩壊は幼稚園から大学まで起き、学力低下も小学校から大学まで広がっている。子供たちが学習そのものを否定し始めている。いまや「学びからの逃走」の時代となっている。学ぶということが高学歴を得る手段とみなした勉強はもはや通用しない。受験戦争の終焉し、あえて勉強する意味が失われている。子どもたちはお客となり、もっとびっくりするような知識やわくわくする体験がないとやらない。おもしろくないとやりたくない。なぜ学ぶのかがわからない。

今こそ「学びの転換」を図り、文化の豊かさ、深さを、人間全体として味わう学びにしていかなければならない。生活科や総合的な学習はもっと知的になることを目指す学びであるはずだ。

勉強とは、社会におけるなんらかの外的基準から「のぞましい」とされる知識や技能を他者からの教示にしたがって、練習を通して、獲得することであり、そこには必ず教師がいる、必ず正解がある。正解が出せるように練習する。

勉強の前にはまず、学びがある。学びとは実践の共同体への正統的な周辺からの参加によるアイデンティティの形成である。学びは教育とは独立の営みで、教師の予定や考えとはまるで違った形の学びが生まれ得る。大人や先生が知らないインターネットの世界に子どもたちがどんどん入り込んでいる。また学びは、自分探しの旅でもあり、学ぶ意欲は学び手が共同体に受け入れられているといった実感があることから生まれる。

まとめると、「勉強」はできるようになることをめざした活動。「学び」はよいことを実現する実践にとまって「できてしまう」こと。本源的に充実した実践活動の中で互いに喜び合い、たたえ合い、賞賛の拍手を送るべきこと。本当の学びはどこか遊び心があるものだ。学力低下は「勉強」を強化することでは救えない。本当の学びを回復せよ。鑑識眼による評価を徹底せよ。勉強を学びに転換。「熱中した遊び学び」を学習に取り入れよ！学びを実践共同体への参加にしよう！

質問 1：参加には役割もあると思うが、あえて「役割」を出さなかった意味は？

アイデンティティから参加という立場で話した。参加には役割も含まれているだろう。

質問 2：具体的な教育の中での実践はどうすべきか？

勉強と学びの違いを意識して実践していただきたい。

質問 3：遊びと学びの定義は？

幼児教育で見ていると遊びも学びも区別はない。本来区別がないものだろう。チンパンジーもそうである。遊びを持たなかったら学びは生まれない。新しく作られる知識や技能は遊びから生まれる。

・実践報告（各 10 分）

1, IT を活用した学習の支援「小学校体育科器械運動における同期型動画コンテンツを通して」

下山裕子（小野市立大部小学校教諭）

小学校4年生の体育「跳び箱」の学習で、学習支援教材（模範演技コンテンツ・模範演技と児童の演技比較コンテンツなどのコンテンツ）を使用した取り組みの発表した。同期型動画コンテンツを SMIL（正面からの演技と側面からの演技を同時に見れる。）を使って作成した。模範演技と児童の演技比較コンテンツでは、比較しやすいように横からの撮影し演技比較とした。技のポイントコンテンツや練習ポイントコンテンツは、アニメーションを使って作成した。また、Web ページによる教材掲示（いつでも、どこでも、見られるようにした）とした。授業では、体育館に4～5台のPCとビデオカメラを設置。撮影したビデオは次の時間までに編集しコンテンツ化した。

2, 子供はコンピュータで探求的に学べるか？ 橋場弘和（神戸大学発達科学部附属中学校教諭）

「数学学習実践事例（関数グラフで絵をかこう）」において、GDRAW、ロゴ坊等のフリーウェアを使った実践を報告した。実践を振り返って、残念ながら子供たちに試行錯誤によって自ら探す姿は見られなかった。PCは子供に学びを起こすだろう。そのためには子供が身に付けておかなければならない基本的な知識が多々ある。また支援の環境が必要。

3, 普通の授業での展開 吉田賢史（甲南高等学校・中学校教諭）

高校1年の数学の授業（どちらかというと数学嫌いの子どもたちに対して）の報告。教師は、こういう授業がしたい（質問が出る、論議ができる、体験させたい）という願いを持っている。webMathematica（携帯電話でも利用可能）を使用し、この願いを少しでも達成しようと取り組んでいる。少し意見が出たが、数学嫌いの子が好きになるような手立てとはいえなかった。

・ 討論「『勉強』と『学び』をつなぐもの～実践報告を受けて～」 討論会司会（武沢 護）

登壇者（武沢 護・下山裕子・橋場弘和・吉田賢史）

武沢：3人が話されたキーワードは、「主体的・発見的・実験的・議論する」等であった。3人に共通している点は、ITは支援ツールであることだと言える。佐伯先生の基調講演についてどう思ったか。

下山：難しいと内容だと思った。教師は目標に対して学習を進めている。子供たちがそれをどのように迫るかが学びだと思っている。

橋場：勉強と学んでいくことはわかる。授業する立場からするとやらなければならないことがあり、どんな流れを起こせばいいのか聞きたかった。

吉田：印象に残ったのは「学力低下」の部分。遊びが大切だという部分。私が授業で勉強するなといった。勉強（強いて勉めるもの）はいやいやするもの。学習（自分で考えるもの）をきなさいといっている。遊びの大切さは佐伯先生の話と共通していた。

武沢：「教科教育の中でPCをどう使っているかについて」、小学校ではどんな実践があるか。

下山：理科の学習で「からだ」について、URLをインターネットで調べておいて見せた。見た後必ず感想を書かせるようにしている。（知識を受けてどう思ったか、考えさせる場面を設定している。）国語科でPCを使ってガイドブック作成をさせている。

武沢：佐伯先生の話の中で佐藤学先生が教科の枠組みを考え直す話もあったが、中学校・高校では、伝統的

な教科もあるので大変だと思うが。

橋場：理科の先生から実験の前に数学でやってほしいことがあると言われている。教科も時期的にあわせることが必要。

吉田：高校では化学のPH（ペーハー）は、先に教えておいてほしいという話があった。

武沢：総合学習ができた経緯のひとつに教科再編もあったように聞くと、伝統的な教科の枠組みはこれでいいのか。フロアーからも意見を聞きたい。

大橋（千葉県高校）：下山先生の体育の跳び箱と佐伯先生の話がリンクし、周縁的な評価がされていると思った。友達の飛んでいる姿を評価しあっている。鑑識眼的な見方ができるのではないかと。もう一点、数学の話が出ていて、役立つとか他教科との関連とかへのこだわりが出ていますが、こだわりはいいのではないかと。数学そのもののおもしろさを感じさせることができるのであっていいのではないかと。試行錯誤させていると時間数が足りなくなるのではないかと。

下山：そういう見方もできるのかと思った。

橋場：私も数学自体がおもしろいと思っている。教科の持っている目標を学ばせたいとも思っている。目からうろこが落ちるような場面があると「やってみようとか」、「がんばってみよう」とかいう気持ちがあくのではないかと。

吉田：数学が役に立つから学習するとは思っていない。解ける解けないかが問題ではなく、数学のおもしろさや楽しさに気づかせてやるのが大切だと思っている。塾なんかに行っていると知識だけ覚えていて、楽しさを知らない気がする。試行錯誤では、授業時間数が足りないことはそのとおりだと思う。Web ベースだと授業時間外に見ることができる。

生田（都立大）：遊びの話があったが遊び自体を見直してみる必要がある。遊びの時間・遊びの場・遊びの仲間が次々と壊れてしまった。遊びが変貌している。この遊びと佐伯先生の言われた遊びをよく検証してみることが必要。高校では、総合学習は無理だと思っている。小学校では雪が降れば先生と一緒に雪遊びができる。高校ではそうできないだろう。

武沢：佐世保事件があったが、最近の子供の遊びはどうか。

下山：最近の遊びというとゲーム。「ゲームの中では人は死んでも生き返られるが、現実とは違う。」という話を教室ですると「わかっている。そんなのはあたりまえやないか。」という話が帰ってくるので、あしたの子供ばかりではないと思う。

橋場：部活に熱中している子もいるので、ゲームばかりではないと思う。

吉田：チャットには待っている子がいる。

武沢：2チャンネルにはまっている子がいる。

神戸大学学院生：実際にコミュニティーの中でどんな目的で勉強するのか先生たちは教えているのか。親たちにどう伝えているのか。自分の経験では途中でこんな目的だと突然伝えられることがあった。見通しが立たないことがあった。

下山：学習の中でのめあては、各教科の目標に到達できるようにということが一番。

橋場：生徒自身のどのような人生設計をなさいたいといっていることと同じことを聞かれていると思う。とてもレベルの高い話だと思う。

武沢：佐伯先生が言われた「教師は半歩前へ！」という言葉が印象に残っている。適切なアドバイスができるようになりたいものである。

高橋（神戸大学）：実際毎週授業をする場合、理論をとやかく言わず、実践は実践となりやすい。でも、それだけではいけないので、理論と実践が同じものになることを佐伯先生は説いているのだと思う。学習指導要領にも各教科の目標に「人間性を養う」部分か書かれているので、そうした目標を授業においても学ばせなければならないと思う。

武沢：時間が短い中だったが、ありがとうございました。続きは夏のカンファレンスで行いましょう！